

東京工業大学大岡山キャンパス

(東急大井町線・目黒線 大岡山駅下車すぐ)

西9号館2階デジタル多目的ホール 入場無料

主催：東京工業大学リベラルアーツセンター

パネリスト①高橋瑞木(水戸芸術館現代美術センター主任学芸員)

柳澤田実(関西学院大学神学部准教授)

伊藤亜紗(東京工業大学リベラルアーツセンター准教授)

ライブドローイング、パネリスト②文谷有佳里(美術作家)

2013.5.20 mon
17:00-19:00



じ
ゆ
う

に
つ
い
て

アートから考える

私たちはいま〈自由〉なのか？

この社会において、〈リベラル=自由〉+〈アーツ=技〉=〈自由になるための技〉が果たすべき役割とは何か？
アートにかかわる若手女性4人が徹底的に語り合います。



震災・原発事故を機に、日本が抱えていた問題が一気に表に出てきた、とも言われます。そのような社会が大きな変革を迫られているときに、東京工業大学リベラルアーツセンターは誕生しました。正式な活動を開始して今年で2年目になるリベラルアーツセンターは、学部生にとって魅力的な文系科目を設計・提供し、さらには学生が主体となって運営する学生プロジェクトの推進など先進的な取り組みをおこなっています。こうした大学内でのセンターの活動は、言うまでもなく、その先に「社会」を見据えています。社会に出て活躍する学生たちのための教育機関は、社会のなかで役割を担う教育機関でなければなりません。

社会とリベラルアーツセンターをつなぐキーワードは「自由」です。「リベラルアーツ」は一般的には「教養教育」と訳されますが、言葉のものと意味をたどれば、「リベラル＝自由」+「アーツ＝技」、すなわち「自由になるための技」となります。いま、私たちはどの程度「自由」なのでしょう。そもそも「自由」とは何でしょうか。今回のシンポジウムでは、芸芸員、美術作家、批評・研究などさまざまな立場からアートと社会的自由の問題にアプローチしているパネリストたちが集まり、この社会における「リベラルアーツ＝自由になるための技」の役割について、徹底的に語り合います。

について
アートから考える

2013.5.20(月)
17:00-19:00

東京工業大学大岡山キャンパス
(東急大井町線・目黒線 大岡山駅下車すぐ)
西9号館2階デジタル多目的ホール

【主催】東京工業大学リベラルアーツセンター
【対象】学生、教職員、一般

当日の様子は、
USTREAMで
中継いたします

入場無料

予約の必要はございませんが、
定員(280名)を越えますと、
会場にお入りいただけない場合がございます。



西9号館は、芝生斜面側の円形
ドアを入るとそこが2階です。
デジタル多目的ホールは、
エントランスを抜けて右手奥に
ございます。

【お問い合わせ】東京工業大学リベラルアーツセンター
〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1 W9 139
<電話>03-5734-3782 <Mail>office@liberal.titech.ac.jp



◇パネリスト

高橋瑞木(たかはし みずき)
水戸芸術館現代美術センター主任学芸員

マンガから建築、ファッション、現代美術まで、幅広い分野の展覧会の企画・実施をおこなうキュレーター。編著書:『じぶんを切りひらくアート』(2010年、フィルムアート社)、『わたしを変える“アートとファッション” クリエイティブの課外授業』(2013年、パルコ出版)。



◇パネリスト

柳澤田実(やなぎさわ たみ)
関西学院大学神学部准教授

1973年生まれ。知覚・認知・行為という観点から、宗教と芸術(アート)について研究をしている。また、理性ではなく身体を基盤にした倫理についても考察を続けている。主な編著書は『ディスポジション:配置としての世界』(現代企画室、2006年)。



◇パネリスト

伊藤亜紗(いとう あさ)
東京工業大学リベラルアーツセンター准教授

2013年2月に本学に着任。専門は、美学(アートや感性の問題を哲学的なアプローチで解明する学問)。研究だけでなく、作品の制作や批評、雑誌の出版などにもかかわっている。著書に『ヴァレリーの芸術哲学、あるいは身体の解剖』(水声社、2013年)。



◇ライブドローイング、パネリスト
文谷有佳里(ぶんや ゆかり)
美術作家

東京芸術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了。もともと作曲専攻だったが、次第に紙やガラスにドローイングを行うようになる。展覧会場に椅子と机を置き、観客と話しながら描く滞在制作を行う。
<http://yukaribunya.com/>

リベラルアーツセンターとは?

東京工業大学リベラルアーツセンターは、リベラルアーツの現代的役割をさぐる拠点として、2012年に実質的な活動をスタートしました。

日本の大学教育はこれまで、専門性に重点を置き、「人間としての教養」を軽視する傾向がありました。しかし、現代社会の諸問題に正面から立ち向かうことのできるリーダーとなるためには、高い人間性と、堅固な社会性を身につけている必要があります。リベラルアーツセンターは、そのような東工大生の「人間としての根っこを太くする」教育を担うという使命をもっています。センターには4人のユニークな教員が所属しており、3名の非常勤の教員とともに、計21の文系全学科目を学部生向けに開講しています。これらの授業ひとつひとつが、まずはリベラルアーツセンターの先進的な取り組みがなされる場です。さらにセンターでは、学生がみずから企画してさまざまなプロジェクトを行うことを応援しています。この「学生プロジェクト」は、自分たちの身につけるべき教養は何か、学生が教員とともに考える機会でもあります。

メンバー・授業



桑子敏雄
センター長・教授
「哲学」「倫理学」
「社会的合意形成の技法」ほか



池上彰
教授
「現代日本を知るために」
「現代世界の歩き方」ほか



上田紀行
教授
「文化人類学」
「文化社会論」ほか



伊藤亜紗
准教授
「現代アート」
「芸術と社会」ほか

非常勤講師

津田大介

「ネットジャーナリズム論」

パトリック・ハーラン

「コミュニケーションと国際関係」

高村是州

「ファッションデザイン概論」

学生プロジェクト

企業と協力して学生みずから授業を設計したり、理系女性の生き方についてイベントを開いたり、講演会や読書会を企画したり、センターの運営をサポートしたり、プロジェクトの内容はさまざま。リベラルアーツセンターは、学生がいつでも自分のアイデアをためることができ実践的な学びの場であると同時に、学びの場や生活の場それじたいが作られていくフロンティアでもあります。意欲ある学生の参加を、いつでも歓迎しています。



<http://www.liberal.titech.ac.jp/>